



Rotary



2015-2016 年度

国際ロータリー会長／ K. R. ラビンドラン
2690地区ガバナー／ 佐藤 芳郎

会長／ 河原 治子 副会長／ 田中 浩史
幹事／ 清原 正幸 会 計／ 田中 久雄

■平田ロータリークラブ 事務局

〒691-0001 島根県出雲市平田町 2280-1 平田商工会議所 2F
TEL: 0853-63-3232 / FAX: 63-5365 / IP: 050-5204-5816
URL: <http://hirata-rotary.jp/> Mail: office@hirata-rotary.jp

9:00 ～ 17:00 (土・日曜・祝祭日 休局)

■例会プログラム ■

例会日	卓話者	演題
3月17日	自然観察指導員 辻井 要介 様	宍道湖の水質と水草
3月24日	万九千神社 宮司 錦田 剛志 様	直会とは何か?
3月31日	休 会	
4月7日	愛宕山 山上 6:30～	早朝例会

■出席報告 ■

会員数	出席者数	欠席者数	出席率	前々回補正出席率
45	29	16 (5)	72.50%	85.00 %

■欠席者 ■

飯塚俊／大島治／三好／土江／清水／石原俊／山口／杉原
大谷良／園／園山 (山根／牧野／木村／田中久／石原輝)

■来訪者 ■

な し

■メイクアップ ■

な し

■次回例会受付当番 ■

(4月7日) 原 泰久／佐々木哲也／園 裕
(4月14日) 小汀泰之／園山 繁／曾田敏康

■近隣クラブ例会情報 (メイクアップを考えましょう) ■

月	出雲中央 4/11 4/18	松江南
火	出雲 3/22(休) 4/5 6/21 6/28(休)	松江しんじ湖 4/12
水	大社	松江 3/30
木		松江東 3/31(休) 6/23 6/30(休)
金	出雲南	

■会長挨拶 ■

御所の桜花

桜の季節となり、桜の名所も数々ある。
京都御所の桜であるが、代々の御門(天皇)にめでられたと伝わる。
紫宸殿の左近の桜のことをお話したい。左近の桜は平安のはじめに植えられたと紫式部の源氏物語に記されている。
歴史的な木であるが、苦難のさくら、苦境のさくらと云い伝えられている。
平清盛により「舞をせよ」と命じられ、静御前が悲しみの舞を披露する。
“静やあ静しう・・・”と。源義経と決別させられた悲しみを舞った桜の舞台でもある。
1467年応仁の乱のあと天皇家は疲弊し、即位の礼も出来ず衣、食にも困り拡大なる庭は雑草が生い繁り、それが100年も続いたと記されている。この天皇のくらしに、ある商人が紫宸殿の南側にぐり戸があるが、そのぐり戸から密かに食事を毎日とどけたとある。その子孫16代目が商いをされていて、京都川端と云う人であり、現在も天皇家とは深い縁があると伝えられている。
御所の桜は日暮れがよい。
昔日の歴史が生き生きとよみがえる。

■幹事報告 ■

1. 地区ガバナーエレクト 庄司尚史様、次期地区代表幹事 岡空晴夫様より3/12・13開催のPETS出席へのお礼状を頂きました。

■委員会報告 ■

情報委員会：本日の家庭集会のご案内

■スマイル ■

河原・清原 (辻井様、ようこそいらっしゃいました。スピーチよろしくお願ひ致します。)

黒田 (本日は急な用務のため中座いたします。)

■スピーチ・例会行事 ■

「宍道湖の水質と水草」

自然観察指導員 辻井 要介 様

私は金沢市の出身で、島根大学への入学を機に島根に来て以来 15 年経ちました。現在は犬伏町に住んでいます。大学ではヤマトシジミ・タニシの水質浄化機能について研究した後、宍道湖自然館ゴビウスで飼育係を 8 年間務めました。ゴビウス退職の後、現在はフリーランスとして、野生生物の調査員を、また以前から趣味でイラストを書いていたこともあって、イラストレーターとしても活動しています。

汽水湖である宍道湖は深いところでも 6m 弱と浅く、下流域(集水域)では人間活動の影響を大きく受けます。宍道湖の水質を、正確なデータのある 1980 年代と比較してみると、塩分濃度・溶存酸素・透明度にはほとんど変化がみられませんが、COD(化学的酸素要求量)・栄養塩(窒素・リン→富栄養化の指標)・クロロフィル量は増加しており、水質は少し悪化しているとみられます。

水質汚濁の要因の一因としてまず考えるべき斐伊川からの汚れ(流入負荷)については、下水道の高度処理や集落排水施設・合併浄化槽の普及によって減少しています。原因の一つとして、宍道湖の窒素濃度上昇に関連して、冬季に大陸から降り注ぐ窒素雨が斐伊川の窒素濃度を上昇させ、宍道湖に流入しているのではないかと考えられています。また、夏に湖底の貧酸素化がおこって湖底からリンが溶出されることも一因と考えられています。

水草は 2009 年秋から水中に大繁茂がみられるようになりました。ほとんどオオササエビモ・ツツイトモの 2 種です。水草が増えると、シジミ漁場が縮小し、景観が損なわれ、寄り藻が腐敗するという負の影響が生じます。底生生物が減少することも懸念されています。一方、理論的には透明度の上昇や水質浄化というプラス面も提唱されており、他生物の産卵や生育場所が増えることも期待されています。

水草を適切に管理するために、繁茂しすぎないように適度に間引いて有機肥料への活用が望まれますが、回収コストの問題など実用化への道のりはまだまだ遠いのが現状です。

生態系への正しい理解の元で、たとえば水質の改善、シジミをはじめとする豊かな水産資源、あるいはレクリエーションや学習の場など、地域住民が求める宍道湖の形を目標に掲げ、それに向けて皆が協働することが宍道湖の自然再生の道を探っていくと良いのではないかと思います。

